

はじける こころ



◆人権教育のこころと力
萱北地域クラブ1

第六中学校区人権教育研究会の取組
～中学校区「めざす子ども」に向けて～3

中障研教学の森デイキャンプ4

◆考えてみよう
「ゆめって、どんな形（かたち）かな」
「誰でもよかった」言説の衝撃5

◆これまでの10年、これからの10年
～人権教育の未来を語ろう～7

げんげのとは：れんげ草が生い茂った草原のこと。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を咲かせます。また、れんげ草は緑肥として大地を肥やします。蓮に似たちいさなれんげ草を、子どもたち一人ひとりの尊敬に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。

みのおから世界へ！ 人権文化の花束を！

市民との協力・協働を「花束」に見立て、「豊かな人権文化の創造」をうたう「人権教育基本方針」は、今年で策定から10年を迎えます。

この節目の年に、箕面市教育委員会では基本方針を見直し、それを推進していく「実施プラン（仮）」を作成しています。

「はじけるこころ26号」では、学校現場や市民のご意見をもとに、教室、学校園所、地域や家庭、箕面市全体の人権教育の課題を考えていきます。くわしくは7ページをご覧ください。

げんげののぺえじ みのおから世界へ！人権文化の花束を！

●写真募集！●
子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送りください。

考えてみよう

これまでの10年、これからの10年 ～人権教育の未来を語ろう～

箕面市人権教育基本方針を策定して10年目を迎えます。箕面市の人権教育はこの10年で、どのように変わり、今後どのように変わらなければならないのでしょうか。現基本方針の策定時に関わったところの森学園の奥谷校長先生から、策定時に基本方針のめざした理念と10年たってみての現実について、また、教職員に実施したアンケートなどから、現在の人権教育を進める上での課題について意見を紹介します。

「箕面市人権教育基本方針（改訂版）」の見直しにあたり

箕面市人権教育推進会議委員
ところの森学園校長 奥谷俊彦

今年度、この方針を見直そうと、人権教育推進会議で話し合われています。現行方針の基本的枠組みや言葉の意味が、確実に学校園や行政に理解されていないことが課題となっています。

現行方針ではそれまでのメニュー方式をやめ、創造性を発揮し、各校で工夫することを求めています。（メニュー方式とは必要な事のすべてを具体的に明示する方式を言います。）たとえばタクシー送迎を明記するのではなく、教育を受ける権利の保障という表現とし、その事を達成する方策を各校で考え合う形式にしました。また、この基本方針がめざす「豊かな人権文化の構築」という言葉ははそれまでの「差別の現実を深く学ぶ」という基本理念と一体のものとして示されたのですが、別の新しい概念として理解されているようです。

その他、何点かにわたって共通理解されるべき事柄があるように思います。見直しにあたり、こういう事が十分に伝えられていくように工夫をする必要があると思います。

人権教育推進会議市民委員の意見

・学校園で何をしたらただでなく、どのような学びがあったのか知りたい。
・学校の特色ある人権教育の取組を知りたい。
・市民も学び続ける必要がある。
・保護者や地域が、PTA活動、懇談会や学校協議会などを通じて、人権の視点を持って教育に参画していく必要がある。

「人権教育についての教職員アンケート」まとめ

- ・人権を教育の土台として意識する必要がある。
- ・学校園や学年によって取組に差があり、個々の先生の力量を高めることが必要。
- ・効果的な教材、他校の実践や指導案を知りたい。
- ・経験の浅い教職員に、これまでの積み上げを継承することが必要。
- ・教職員の人間関係が大切。
- ・支援の必要な子どもへの指導のあり方、周りの子どもとのつなぎ方に悩んでいる。
- ・人権教育は広く浅い内容になってしまった。一つの問題を通じた学びが、他の人権課題に通じるような深まりが必要。
- ・保護者との連携や支援が課題。

たくさんのご意見ありがとうございました。これらを生かして見直しを進めます。また、次号以降でも見直しの過程をお伝えしていきます。

人権教育推進会議情報誌 『はじける ころ』

発行 箕面市人権教育推進会議
箕面市教育委員会
人権教育課 TEL 072-724-6921 FAX 072-724-6010
e-mail: edujiinken@maple.city.minoh.lg.jp
平成22年（2010年）9月
人権教育推進会議委員

八木晃介、河野秀忠、蒲隆夫、安東由紀子、小松かおり、阪東行子、姜信愛、守婦朋子、永田千砂、小関政子、奥谷俊彦、武本喜美子、下田あや子、齋藤史恵、竹綱珠衣、森崎直幸

「はじけるこころ」は教職員・PTA運営委員に配布しています。また公共施設にもおいています。公開ホームページ：<http://www.city.minoh.lg.jp/edujiinken/jinken/jinken.html>

菅北地域クラブ

「みんなで支える学校・みんなで育てる子ども」を合い言葉に、平成二十年度から始まった学校支援地域本部事業。それをうけて、菅野北小学校区で発足した「菅北地域クラブ」の取組を取材しました。



今回は「みんなで遊ぼう」と題して、□フットや腕時計などの紙工作、将棋、卓球等の活動が行われ、40名程が参加しました。活動の合間をぬって、地域コーディネーターの下鍛治さん、岡崎さん、地域の方々や菅野北小学校の先生からお話をうかがいました。

Q つつても楽しそうに準備をされていますね。

A 大人が面白そうでしょう。あちらにいらっしやる方は今回初めて卓球を教えに来てくれたんですけど、準備が終わったら他の人と夢中でぶんぶんこまを回している。大人のつながりもうまれているんですよ。

Q これまでどんな活動をされているのですか。

A 「みんなで遊ぼう」という物づくりの活動は月に一回くらいのペースでやっ

ていて、昨年度も合わせると9回目です。

それ以外にも「山の辺ハイキング」「砂防ダム見学」といった休日の「お出かけ」もしましたし、よもぎ団子やカレー作りもしました。カレーを食べた後で、夏の星空を眺めた前回の活動には200名を超える参加があり、大好評でした。

Q 活動にこめられた思いや活動のねらいを教えてください。

A 放課後や休みの日に、学年を越えて子どもたちがつながり、一緒に遊べる場ができるといいなと

思い、菅北地域クラブを立ち上げました。次世代のために何かを引継いでいきたい一心で、子どもたちが喜んで取り組めるよう考えています。

誰のロケットが一番飛ぶかな？



Q よかつたな、うれしいなと感じるときはどんな時ですか。

A 試作を重ねて、準備をした工作に、子どもたちの自由な発想が加わった時ですね。楽しい作品ができた時は、スタッフも子どもたちと一緒に楽しんでいきます。

Q スタッフの皆さんはどのような思いで活動されているのですか。

家で飛ばしていた。おにちゃんとも遊んだ。

取組に参加して(感想)

スタッフのみなさんが和気あいあいと準備しておられ、子どもたちと一緒に楽しみたいという気持ちがあふれていて、それが子どもたちに伝わっているような気がしました。牛乳パック等の廃材をうまく利用

したおもちゃは、改良の余地が魅力となつていようです。子どもたちはごく自然に自分たちに都合のいいように形を変え、遊び方も様々に変化させて、好きなように楽しんでいました。

簡単な素材と場所があれば、それぞれが創意工夫の上、楽しく遊んでいることに、子どもならではの可能性と力強さを感じました。ボランティアのみなさんも子どもたちも終始にこやかで、見ているだけでこちらも元気をもらうことができました。

(編集委員 小松)

スタッフの熱意は、子育て中の私にとって頭の下がる想いでした。開始にあたり、スタッフの方を「お

(中村さん)

A 登校指導を5年以上していましたが、地域クラブを始めてから、以前にも増して子どもがあいさつをしてくれるようになりました。楽しく遊びながらも、初めと最後のあいさつや、遊びの中の礼儀などをきちんと伝えていきたいと考えています。菅北地域クラブに来ることで、自分も子どもたちから元気をもらっています。

(川波さん)

A 戦時中は物がなく、自分でいろいろと考えて作ることで創造力がつき、手先も器用になりました。出来合いのおもちゃで遊ぶ最近の子どもたちに、物の大切さを伝えたいです。

(小川さん)

A 元気な子どもたちの顔を見るのが楽しみで参加しています。

(郭さん)

A 子どもは地域の宝。これから子どもたちを見守っていきたいです。小さい頃を知っていたら、大きくなってから悪いことをしていても注意しやすいと思います。スタッフどうしの横のつながりができているのもいいですね。

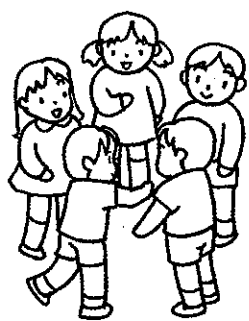
名前と呼ぶように」と学校から指導があり、地域の方とのつながりを大切にされていました。入念に準備された手作りおもちゃのありがたみを子どもたちが感じ、お礼の言葉が自然と出てくるようになればいいと思います。

一つだけ気になったことはPTAの方の参加が少なかったことです。私も日常就労のため学校行事や、PTA活動にもなかなか参加が出来ませんが、学校や地域の方に任せつきりというのはいけないと改めて感じました。

(編集委員 安東)

※「学校支援本部事業」
国の委託事業。各中学校区ごとに地域の方が小中学校でいろいろなかかわりをして、子どもたちを支援するもの

※「地域コーディネーター」
学校支援地域本部事業において、学校ボランティア間の調整を行う



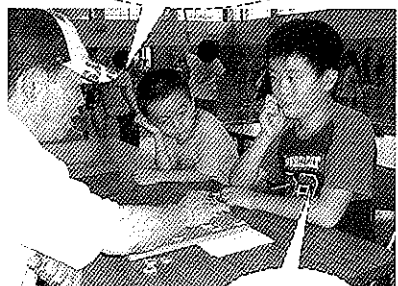
どうやったらうまくとびますか。

・毎回参加してる。いつもやったらひとりでゲームしてる。今日はとくべつな日。

・ぶんぶんこまや手作り腕時計、びゅんびゅんロケットをみんなといっしょに作れて楽しい。
・このクラブはたくさんの人といろんなことができるからいつも参加してる。

・友だちに誘われて初めてきた。楽しいし、また来たい。
・前回ぶんぶんゴマにめっちゃはまった。やりすぎて手が切れて血がにじんでくるくらいやった。今日も作った。

・ピュンピュンロケットの材料をもう一個もらって妹と遊ぶねん。前に作ったブルーメランはずっと



歩で守りを固めるといいよ

なるほど!

子どもたちの声
・竹のプロペラ、ちえの輪がじょうずに出来ているなあ。
・持って帰って、「友だちや近所の人といっしょに自分で作ったよ」ってお母さんやお父さんに見せている。
・宿題とか習い事でいそがしい。家にいるとあまり遊ぶ時間がないので楽しい。

Q 先生から見て、地域クラブの良さはどんなところでしょうか。

(山口教諭)
A 子どもたちの人間関係が広がるのが大きいですね。活動や場の楽しさだけでなく、人とのつながりが、子どもたちを「また行きたい」という気にさせているんだと思います。

中障研 教学の森 ティ・キャンプ

7月の末、中障研が主管するキャンプが教学の森で行われました。障害のある生徒、その友だちや先生方等80名が教学の森に集い、カレー作りや交流の集いを行いました。学校を超えてつながる生徒たちの活動の様子をお届けします。



【プログラムにはない交流】

活動の合間には、手遊び、パンプダンス、鬼ごっこやおしゃべりなど、いろいろな形で自然と交流を深める姿が見られました。

活動のねらい

- ・障害のある子どもたちが自分たちで活動を進めることを体験する
- ・学校の枠を超えて、生徒どうしがつながり、なかまを作る。

【他校の生徒とのつながり】

各校の生徒が分かれて活動班をつくります。先生方がとても和やかな雰囲気の中で自己紹介を進められていて、生徒たちはすぐにニックネームで呼び合うようになりました。中には、以前の活動で知り合った仲間と親しそうに話す生徒の姿も見られました。



【共にわらい 共におどる】

交流の集いでは漫才、クイズ、リンボーダンス大会、寸劇等、各校で趣向を凝らした出し物がありました。

みんなでお腹を抱えて笑ったり歌ったりするうちに生まれた心地よい一体感は、最後の盆踊りでピークに達します。初めは照れていた生徒も、先生に教えてもらいながら、最後にはとてもうれしそうに踊っていました。



【失敗オッケー！】

活動班ごとに分かれてカレー作り。「薪に火がつかない！」「包丁で指を切った！」「カレーを落とす！」いろいろな失敗がありましたが、それをものともせず、おいしいカレーが出来上がりました。

大事にされていたことは、先生が必要以上に手を出さないこと。生徒の失敗も大事にする時間のゆとりがありました。

中障研とは・・・

箕面市人権教育研究会支援教育部会中学校の呼称。「ともに学び、ともに育つ」教育の推進のため、研究や実践、進路情報の交流とともに、行事の企画運営も行っている。他に行事としては春の遠足と、冬のお楽しみ会がある。各行事には支援学級以外の生徒も参加している。

（生徒の感想）

- ・去年参加して、友だちが増えてうれしかったから今年も来た。
- ・火をおこすのが難しかったけれど、うまくいって嬉しかった。
- ・みんなで協力できたのでおいしいカレーが出来た。
- ・去年はあまり長い時間参加できなかったけれど、今年は最後まで参加することが出来た。
- ・自分にとっては最後のキャンプ。中学校生活は短くて寂しいが、最高の思い出が出来た。

第六中学校区人権教育研究会の取り組み

～中学校区「めざす子ども」に向けて～

箕面市では、中学校区を単位として学校園所の連携を進めています。今回は、第六中学校区の研究会で公開された授業を見せていただきました。

六中学校区めざす子ども

- ① 将来にいきでたらら〜学力をもった子ども
 - ② 自分で考え主体的に行動する子ども
 - ③ 自分に自信をもち、間違うことを恐れずチャレンジする子ども
 - ④ コミュニケーション力を高め、お互いを認め合い幅広い人間関係を築ける子ども
- （集団づくり）

今回は、豊川北小学校の2年生の授業を参観し、授業をされた中道先生にもお話を聞きました。

すくすく〜1〜キッキング （2年生）

「今日はすくすくをするよ。」といわれ、子どもたちは早くもニコニコ顔。先生が用意したすくすくには、「好きな食べものは？」「言われてうれしい言葉をついよ」など、面白いことが書いてあります。よく見ると、何も書いていないマスもあります。

授業の流れ

- ① ねらい「友だちの知らないところを見つけて」を確認。
- ② 友だちに聞きたいことをカードに書いて、空欄のマスにお
- ③ すくすく開始。止まったマス目の指示にこたえる。「なんでそれが好きなん？」と話を続けるグループも。
- ④ 感想を書き、クラス全体でふりかえりをする。



ファイトーオー！



子どもたちの感想

友だちのがんばっていることが分かった。友だちの好きな動物とかが分かって楽しかった。友だちが大きくなったら何になりたいかとか、おたん生日が分かった。〇〇さんがお手伝いしていることが分かった。みんなの分からないところが分かってとってもうれしかった！

先生の感想

どの子どもも友だちと自分との共通点を見つけ、楽しみながら活動することができていました。これからがんばって欲しいことは、しっかりと友だちの話を聞くことです。質問の答えが思いつかない友

だちに、考えるヒントを出している子がいて、グループで学習を進められるようになってきたことを実感しました。

授業を見た感想

すくすくを通じて自分のことを友だちに話し、相手のことを知るだけだけでなく、かけ声をかけながらさざりげなくスキップを取ることもできる場面もありました。子どもたちは照れながらも小さな手を重ね、声を合わせ嬉しそうに「ファイトーオー！おーっ！」と叫んでいました。子どもたちの感想からも、この取り組みが友だちに興味を抱きかけられていることを感じました。また、教室には、友だちどうしで協力し合いながら新聞紙の上で立つ「協力の木」というゲームをしたときの写真が貼られています。新聞紙の面積が小さくなるにつれ、体をくっつけたり、おんぶしたりしながら、どの子も笑い顔を見せていました。普段から子どもたちのつながりをつくり、コミュニケーション能力を高める取り組みがされていることを実感しました。こういった取り組みが積み重ねられる中で子どもたちの成長が楽しみです。

（編集委員 小松）

「ゆめって、どんな形(かたち)かな」

かわのひでただ

「なんか、今年(ことし)は、いつまでもさむくて、春がなかなかこないなあと思っていたら、きゅうにあつくくなって、夏になっちゃったね。ムシムシあつくて、こんなのやだね。ツバメも空たかくとべない日がつづいて、やんなってるんじゃないかなあ。」

オジサンはね。タア君の年ごろだね。(タア君って、ボクのこと。車イスを使って学校に通ってる。小学校五年生だよ。)ひとつのゆめがあったんだよ。」

このオジサンは、学校の校務員(こうむいん)さんなんだ。ボクが学校に行くと、先生や友だちといっしょになって、いつもボクの車イスをおしてくれる。だからってフケじゃないんだけど、大のなかよしなんだ。

今日、ボクは、ねぼうして、学校にチコクしちゃった。そしたら、オジサンは、心配そうな顔をして、校門(こうもん)のところまでまわってくれてた。だから、放課後(ほうかご)に、オジサンがいつもいる部屋(へや)に行つて、ありがとつ(きもち)をこどけだんだ。そのときに、オジサンがいろいろハナシしてくれてね。そのハナシのことなんだよ。

まどのガラスで、ピカピカしている太陽の光が、夏だよあ。」

オジサンは、ねぼうして、学校にチコクしちゃった。そしたら、オジサンは、心配そうな顔をして、校門(こうもん)のところまでまわってくれてた。だから、放課後(ほうかご)に、オジサンがいつもいる部屋(へや)に行つて、ありがとつ(きもち)をこどけだんだ。そのときに、オジサンがいろいろハナシしてくれてね。そのハナシのことなんだよ。

まどのガラスで、ピカピカしている太陽の光が、夏だよあ。」

「学校を卒業(そつぎょう)してから、ほんとイロイロな仕事(しごと)をしたなあ。でも、どれもウマクいかなくてね。それで、試験(しけん)をうけて、今の仕事についてんだよ。」

まあ、いろんなことがあったけど、スキなひとができて、モメながらだったけど、結婚(けっこん)して、子どももできたし、生まれた場所には、いっぱい仲間(なかま)がいるしね。それで気づいたんだ。オジサンのゆめって、にげてしあわせになるんじゃないんだ。本当(ほんとう)は、生まれたところがスキで、仲間がスキで、オジサンは、オジサンがスキなんだってね。タア君のころに持(も)ったゆめは、オジサンは、オジサンなんだ。ほかのひとにはれないんだ。だから、そのオジサンのまんま、しあわせになることだったんだとね。

ゆめがホンモノになるためには、長い時間がかかるのかもしれないな。だから、オジサンは、いっしょにゆめいじめる時間を食べたんだ。と、大きな口で、ホッホッホと笑い(わらい)ながら、ボクを目をのぞきこんで、

「誰(たれ)もよかつた」

八木 昇 介

「誰(たれ)もよかつた」——。これは、あの衝撃的(しんげきてき)だった秋葉原事件(あきはらじけん)の被告人(ひがうにん)加藤(かとう)さんの言葉(ことば)でした。

誰でもよかつたとは何(なに)だと言(い)う種(たぐ)か、世(よ)の大勢(たいせい)は激怒(げきど)したものです。私は加藤(かとう)さんの真意(まごころ)を「相手(かたが)が分からなかった」「すなわち」誰(たれ)が真(ま)の敵(てき)なのか分からなかった」という地平(ちへい)で推察(すいさつ)することができました。

「真(ま)の敵(てき)を見誤(みご)るのはまことに悲劇(ひげき)といつても可(べ)いかもしれませんが、現実(げんじつ)には「真(ま)の敵(てき)」がその本当(ほんとう)の姿(すがた)をあらわすことは滅多(めった)ありません。どこかに姿(すがた)を隠(かく)して、はなへ笑(わら)っているのが通例(つうれい)です。」

いちはん苦(くる)しいことば誰(たれ)にも話(はな)さない。そういつ「ひきつけ」の心理(こころ)が、私のいる大学の学生(がくせい)を含(こ)めて今の若い人(わがや)たちの常態(じょうたい)になりつつあることを私はひどく気にするようになっていす。苦(くる)しいことを他者(たが)に話(はな)さないということは、世間(よこ)への異議(いぎ)申し立て(てい)の回路(くわい)が絶(た)たれているということでもあります。社会(しゃかい)の諸矛盾(しよぼうりん)に対する若い人(わがや)たちの度(た)をこした寛容(くわんよう)な態度(たいど)は、単(ただ)なる無関心(むかんしん)を超(こ)えた一種(いっしゆ)の病理(びり)でもあるとおもいます。

加藤(かとう)さんの決定的(けつてい)な不幸(ふこう)は、一番(いちばん)苦(くる)しいことを誰(たれ)にも話(はな)せない孤立(こりた)を律儀(りてい)に引き受けすぎたところにあるのではないかと私は想像(さうぞう)します。ここで、も撃(う)つべきはネオリベ(新自由主義)流(りゅう)の「自己責任(じこせきにん)論(ろん)でありましよう。」

(やぎ・こつすけ)花園(はなづ)大学(だいがく)文学部(ぶんがくぶ)教授(けうじゆ)

●人の命(いのち)の重さ(かさ)をしっかりと考(かん)えなければなりません。近年(きんねん)、突然(とつぜん)に命(いのち)を奪(さら)われてしまつ事件(じけん)が後(あと)を絶(た)ちません。被害者(ひがいしゃ)や残(のこ)された人(ひと)たちの思い、社会(しゃかい)のあり方(ありかた)、人と人(ひと)とのつながり、そして教育(きよういく)の役割(やくわい)……いろいろな切り口(きりぐち)から考(かん)え、悲惨(ひつぱん)な事件(じけん)がふたたび起(お)こらないようにしなければなりません。あなたは何(なに)を考(かん)えますか。

「オジサンは、今(いま)しあわせだよ。そして、もっと、もっとしあわせになるんだと、この学校(がっこう)の子どもたちの顔(かほ)を見ながら、決(き)めているんだ。ところで、タア君(たあくん)は、今(いま)しあわせかい？ 自分(おれ)のことがスキかい？ ゆめは、あるかい？」

「わかんないけど、ゆっくり考(かん)えるよ。こんどころ来(き)るときまで、考(かん)えます。」

学校(がっこう)からの帰り道(かへりみち)。車イス(くるいす)をおしてくれている花(はな)はな(ちゃん)に聞いたんだ。

「花ちゃん(はなちゃん)は、花ちゃん(はなちゃん)のことがスキかい？」

「あたりまえじゃんか。だれでも、みんな、自分(おれ)がスキじゃないの。自分のことがスキじゃないと、ほかのひとのことをスキになれないよ。」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

「母(はは)さんは、母(はは)さんのことがスキですか？」

